



〒915-0823

福井県越前市本町10-2

親縁山 大寶寺

TEL/FAX (0778) 22-1682

十夜法要のご案内

10月26日、上高地を訪れる機会に恵まれました。すでに紅葉も終わり、穂高連峰の頂は雲に隠れていましたが、時折日がさすまざますの好天に恵まれ、冠雪した北アルプスの山々を眺めることができました。

さて、昔からお十夜荒れと言われるように、山の寒さが間もなく里に下りてきますが、今年は台風がこなかったこともあり、11月の下旬には里でも鮮やかなで紅葉が楽しめるそうです。

秋の収穫も終わり、ぼちぼちと冬支度に取りかかろうという時期、恒例の十夜法要を11月14・15日と執り行います。



北アルプス唯一の活火山である焼岳。麓には大正池があります。

お十夜とは
観無量寿経に「この土において善をなすこと十日十夜なれば、他方諸仏国土において善をなすこと千歳に勝る」とあることが由来ですが、現在では、数日、あるいは一日でお勤めすることがほとんどです。当山では二日間のお勤めとなります。

今年は昨年に引き続き赤萩の清水涼裕上人にご布教をお願い致しております。

14日の夜の法要は僧侶が内陣を行道し散華をするという荘厳なお勤めです。法話を聞き頂いたあとには、寺で取れた丹波栗を混ぜた小豆がゆを提供致します。遠方の方は寺にお泊まり頂くこともできます。是非、おまいり下さい。

大寶寺 十夜法要日程

○十一月十四日(金)

午後二時 開白法要

〃 三時 説教

〃 夜七時 初夜法要

〃 八時 説教

〃 十時あずきがゆ接待

○十一月十五日(土)

午前十時 日中法要

〃 十一時 説教

〃 十一時 昼食 終了

布教師 河野赤萩

清水涼裕上人

賑わった大寶寺見限

今年は源氏物語千年紀にあたり、市内でもさまざまな企画がなされ、大寶寺にも拝観の希望がありました。大寶寺では、檀家さんに限らず広く一般の人々にも、お寺に親しんでいただければと思っておりますので、拝観等ご希望がありましたら遠慮なくお知らせ下さい。

本町健康づくり

10月4日(土)



本堂の前で立葵の会の代表の方の説明を聞く皆さん。大人に混じって子どもたちも参加しています。

穏やかな好天に恵まれた一日、二十数名の本町の中高年の方々が、大寶寺を訪れました。住職の説明を聞いて、普段は外から眺めるだけの堂内の仏さまなど拝観して頂きました。その後、一行は語り部とともに周辺のお寺や遺跡を見学しました。

町探検学習

10月9日(木)

越前市東小学校は風船が取りもつ縁で静岡県浜松市の積志小学校と47年間交流が続いています。今年はその一環として両校の

立葵の会

10月26日(日)

5年生が十名程度の班ごとに、市内の名所を巡り歩きました。北側の山門から大寶寺の境内に入った各班の小学生は本堂の前で記念写真を撮ったり、水吹き地蔵のお堂の焦げた跡を興味深げに見入っていました。

早朝に降った雨が上がり老若男女入り交じった30名あまりの一行が午前9時半に大寶寺に集合し、付近を探索しました。

大寶寺では本堂内で住職の説明を聞いたあと、本堂内の開山上人像、結城秀康公および本多富正公のお位牌、また、宝物殿に安置してある知恩院より拝受した元本尊(鎌倉期作)の阿弥陀如来立像などに参拝して頂きました。

立葵の会は越前府中の城主であった本多富正公の家紋をシンボルとし、府中の文化の発掘、調査、啓蒙活動を通して、歴史に学ぶ文化のまちづくりに寄与すべく、諸活動を行っている市民団体です。



本堂の正面で記念撮影のポーズをとる東小学校の子どもたち。写真を撮っているのは保護者のボランティア。

濁中蓮華

濁った世間に咲く蓮の花の意

三輪清浄3(死について)

不老長寿や不老不死は人類の夢でありうるか。人は誕生から死に至るまで、連続的に変化する。ある所まではこれを成長と呼び、ある所からはこれを老化と呼ぶ。若くして年寄り臭い人もいれば、高齢でも若々しい人がいるのだが、不老とは、いったいどの年齢でこの変化を止めることをいうのか。

また、人類がおしなべて健康で長生きすることになれば、医療費は抑制されようが、食料を始め、さまざまな資源の不足が、今以上に深刻化する。不死が現実となり急激な人口増が起これば、万人にそれを保証することは不可能となり、不死を一部の特権階級のものとするか、一定の年齢をもつて強制的に死ぬことを制度化でもしなければ、新たな命の誕生は不可能になる。ことによっては不死の奪い合いが起きかねない。

しよせん、不老長寿や不老不死は、実現ができないからこの夢であって、それらが実現すれば、悪夢と化することは必至である。

仏教は死を最後の布施とする。布施は能施(布施をする者)、所施(布施を受けるもの)、施物(布施の中身)の三者によってなる。死においての能施は人である。施物は身体および命そのものである。では、所施、つまり布施を受けるのは何か。死をもつて新たな命を育む余地を提供すると考え

れば、これから誕生する命と考えることができる。また、死ねば体が自然に返ることを思えば、自然そのものを所施と考えることもできる。

ところで、布施はこれら三者が清浄であることとを求める。施物である命や体、また、受け手である新たな生命や自然の清らかさについて問うことは重要ではない。大切なのは施主である自分がいかに清浄に最後の布施をするか、すなわち、自らの死をいかに安らかに迎えるかということだ。

そもそも、命を惜しむことは生き物の本能である。情緒や思索の能力が発達した人間は、死に対する恐怖が一層強い。五濁悪世の末世にあつてはなおさらだ。我が名を呼べば、西方極楽浄土に必ず救い取るとの阿弥陀仏の本願にすがらることをさておいて、凡夫が清らかな死の布施行を全うする術がありえようか。

合掌

五濁悪世

仏説阿弥陀經に次の一節がある。能於娑婆国土。五濁惡世。却濁。見濁。煩惱濁。衆生濁。命濁中。得阿耨多羅。三藐三菩提。為諸衆生。説是一切世間。難信之法。

「お釈迦さまは」よく娑婆世界の末世になって現れる社会悪、邪な思想の横行、精神的悪徳、身心の脆弱、短命といった五濁のなかにありながらこの上なく正しい悟りを得て、多くの人々のためにこの一切世間の人々にとって信じ難い念仏の教えを説かれたと(六方の諸仏が述べられている。)

訳の引用「お釈 浄土志」藤井正雄著 講談社

インド仏心寺を支援する会会員募集

インド・ビハール州にあるブッダガヤという町はお釈迦様が悟りを開かれた土地です。ここに誰もが、いつでも宿泊の出来る宿坊を造ろうと建立されたのが仏心寺です。また、仏心寺にはチルドレンスクールという地元の子供たちを支援する学校があります。広く協力を頂ける方を募集しておりますので、ぜひご協力下さい。



日本から送られた仏心寺のご本尊にお焼香をするインドの子供たち

- 支援会員 10,000円
 - 協力会員 5,000円
 - 里親会員(1口) 10,000円
- チルドレン・スクールの子供1人の1年分の教育費に充てられます。
一般寄付 (随時受付)

子どもたちとの交流会

期間 2009年1月26日~2月1日
代金 285,000円
釈尊二大聖地参拝、ネパール寺院ヒマラヤ眺望の旅

問い合わせ、申込みは大寶寺にて受け付けております。



知恩院ライトアップ 2008

11月8日(土)~11月30日(日) 拝観時間:午後5:30~午後9時(受付終了)
【会場】知恩院三門、御影堂、友禅苑、方丈庭園 【拝観料】大人800円(高校生以上)
(三門はライトアップのみ) 小人400円(小・中学生)
【ライトアップコンサート】午後6時~7時まで
詳細は <http://www.chion-in.or.jp/topics/lightup2008.html> にて

法然上人八百年大遠忌 おまちうけ
チャリティコンサート コーロ・フローラ演奏会

2009.1.9(金) 18:00 開演 京都コンサートホール 大ホール
主催 浄土宗総本山知恩院 入場料 2,000円 全席指定
申込みは 知恩院布教教務部 075-531-2157
IKEYAMA オフィス池山 075-251-1771
演目 音楽法要、唱歌の四季、声明など